

さつまいもの新規導入に係る調査研究

さつまいも栽培研究会

代表 高田 紗敏

1. 調査研究の目的

収益性向上に向け、新たな作物の導入を検討した結果、近年北海道でも増えているさつまいもの栽培に挑戦しようと考えた。温暖な地域とは異なるこの場所における最適な栽培方法を模索するとともに、栽培技術の向上を図ることで安定生産を実現し、収益性アップを目指す。

2. 調査研究の方法・内容

品種	ベニアズマ
育苗期間	3月19日～5月31日
圃場定植日	6月1日
畝幅	90cm
株間	40cm
マルチ	黒マルチ
肥料	農配汎用1号 70kg/10a
農薬	ベンレートT水和剤200倍（植え付け前苗消毒）
収穫日	10月1日
収穫量	1200kg/10a

（表1）

3. 調査研究の結果

昨年の無加温栽培の反省を踏まえ、今回は土中に電熱線を埋めて栽培することにし、その他は昨年と比較できるように同じ条件で栽培を行った。(表2)(写真1)電熱線の温度を20℃に設定し、早朝の観察を行った結果、トンネル内は10℃まで下がる日もあったが土中が20℃に保たれているため苗の徒長も停滞することなく順調に成長した。(写真2)



	R5	R6
肥料	N, P, K 各 20g	N, P, K 各 20g
株間	15cmX15cm	15cmX15cm
マルチ	黒マルチ	黒マルチ
トンネル	3 種類マット	3 種類マット
加温	無加温	電熱線

(表2)



6月1日に(表1)の内容で圃場に植え付けを行った。今年は苗が順調に成長してくれたおかげで予定していた通り、10a分の面積を植え付けることができた。

植え付け後の管理は雑草処理のみで、収穫時期まで無農薬で栽培を行った。

収量結果としては、猛暑、水不足などの影響もあり1200kg/10aと今年も満足できない結果となってしまった。

4. 今後の課題と方策

今回の研究で、やはり北海道でのサツマイモ苗の増殖にはある程度の温度が必要であることがわかった。特に土中の温度が大事で、根域に十分な温度があれば地上が低温になっても苗は停滞することなく順調に生育する。丈夫な苗を作ることが収益性アップにつながると昨年同様改めて実感した。作物を畑で作っている以上、収穫量が天候に左右されるのは仕方がないことだが、やり方次第でもまた収穫量が変わってくる。その場所に適した栽培方法を見つけ出し、北海道産サツマイモをもっと盛り上げていきたい。

試しに苗の葉をすべて取り、蔓のみで植えた所、活着次第だがサツマイモができました。





4/27



4/27 70cm まで成長



1 mまで成長

3 等分に切り定植



定植後圃場

